

6月の果実の見通し

品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
おうとう	1,667	少ない	1,143	1,558	110%	1,806	1,531	91.8%	全体的には開花が前年より5～10日遅く、満開までの期間が長くかかった。そのため、山梨産露地物が5月末からのスタートとなり、山形産は6月中旬からとなる。秋田産は5月15日の雹害により、秀品率は落ちるものの、6月末からは出荷開始となる。昨年より出回りが後半にずれするため、6月の入荷量としては前年より少なく、価格は若干高値基調を見込む。
もも	1,618	かなり少ない	1,202	610	105%	639	1	0.1%	山梨産の露地桃の開花は3月からの低温続きで前年に比べて5～7日遅く、その後の生育も遅れ気味に推移している。山梨産露地物の出荷開始は6月中旬からの予定で、引き続き和歌山・福岡の露地物も始まる。前年より出回りが遅く、需要期にあった出荷パターンとなりそうであり、販売環境は良いだろう。早生種「ちよひめ」「はなよめ」の出始めがおうとうのピークと重なることで、初荷時の価格は若干前年を下回るかもしれないが、全体の流れとしては良い。
ぶどう類	621	少ない	570	1,404	100%	1,332	47	7.6%	島根・大阪・山形・山梨産のデラウウェアが中心の販売。引き続き大房品種も出揃ってくる。6月上旬には岡山のシャインも始まる。長野・栃木・山梨・岡山の巨峰やピオーネも潤沢な出荷が見込まれる。5月は高値基調だったが、品種出揃うことで相場も徐々に相場は落ち着いてくる。桃やおうとうなど競合する露地の夏果実が増えてくるが、輸入ブドウの入荷が5月でほぼ終了し、店頭では国産ブドウを販売しようとする流れが出てくる中で、デラウウェアなどの引き合いは強まることが見込まれる。
すいか類	10,434	多い	9,583	197	98%	199	9	0.1%	5月上旬から中旬まで大玉・小玉ともに出回りが少なく、販売は堅調であった。5月下旬から早場産地(大玉:熊本 小玉:茨城・群馬)の出荷増と、関東近県産も出荷が本格化。中旬には鳥取も始まってすいか全体の出回りが多くなるため、価格は前年並で推移しよう。昨年は梅雨が短く、気温高で販売環境は良かった。例年関東は6月上旬に梅雨入りし、前年はその後の天候で好調な販売であった。小玉すいかもピークとなり、大玉増えては来るものの、引き合いはある。
メロン類	5,203	やや少ない	5,387	407	103%	381	162	3.1%	関東産露地メロンの出荷が本格化してくる。5月中旬までは天候不良などの影響で小玉傾向が見られ、出荷箱数が伸び悩んでいたが、下旬からの好天で玉肥大も回復してきており、6月に入れば前年並の数量に回復してこよう。品種は青肉の「アンデス」「貴味」と赤肉の「クインシー」など。一時的に品薄となったこともあって価格はしっかりとしており、5月の販売環境は悪く無く、6月にかけても安定した価格推移が見込まれる。中旬以降は価格もほぼ保ち合いとなろう。